



# かどや通信

第26号

発行日：平成30年5月  
発行：かどや保存会  
企画・編集：廣野 克子

## お蔭様！ 早くも入館者三万人突破！

鳥羽大庄屋かどやの入館者が三月二十六日に、三万人を突破した。記念すべき三万人目のお客様は、親子三代五人で大阪市から来られた松尾さんご一家だ。

玄関に入るやいなや、清水館長の「おめでとうございますー」という歓迎の呼びかけに、「突然のことでびっくりしましたが、とてもよい記念になりました」と、おばあ様がチャームिंगな笑顔で答えてくれた。松尾さんご一家は、伊勢神宮に度々来られており、その際鳥羽市や志摩市にも足を伸ばされているそうだが、かどやを訪れたのは今回が



初めて。前日鳥羽市内のホテル泊し、

な観光施設は行き尽くしているため、ホテルのパンフレットで見つけたかどやに足を運んでくれたという。

松尾さんには記念品として、かどやのロゴ入りTシャツや絵葉書などかどやゆかりの品々をはじめ、ネットでも人気の魚寅特製かきの燻製オイル漬けや鳥羽の名菓シエルシュー等が贈呈された。古民家に興味があるというご一家はその後、館内をゆっくりと見学され、「また、来るわね！」と言って帰って行った。その言葉どおり五月三日の午前中にも来館されたが、午後にはゴールデンウィーク恒例のお琴の演奏会があり、松尾さんが来られた時はリハーサルの真っ最中。古民家かどやにふさわしい琴の音色まで楽しんでいただけた。

清水館長は「三万人記念がご縁で、またかどやに来ていただけで、ありがたい」とにっこり。素敵な絆に、話を聞いたスタッフ達も「これからもがんばらなきゃ」と氣勢を上げた。

### スピード記録達成の裏に

かどやは平成二十五年五月一日に一般公開が始まり、二年後の二十

七年五月二日に一万人目を迎えた。順調にいけば二万人目は二年後の二十九年五月頃と予想していたが、二十七年十月に外部会場と連動した寄せ植え作品展でぐくっと入館者が増えたこともあり、一万人目から約一年半後の平成二十八年十一月五日に二万人を突破。さらにその約一年五ヶ月後に、なんと三万人目のお客様を迎えることができた。

今回は寄せ植え展のような大規模な行事はなかったが、昨年は最強の三代目事務員が幅広い交友関係を駆使して新たなニーズを拾い上げ、これまではなかった子育て奮闘中の主婦向けにお針子倶楽部やおさかな倶楽部等の教室を立ち上げる、子供向け企画も続々と実現してくれたことが入館者増大の大きな要因となった。

清水館長は「予想をはるかに上回る速さで入館者三万人を突破でき、大変うれしく思います。三代目の頑張りはもちろん、かどやに足を運んでくださるお客様と、素敵な作品でかどやを飾ってくださる出展者の皆さんに感謝です。これからも、人と多様な情報が交差し、様々な絆を生み出す拠点となるよう盛り立てていきます」と話してくれた。

## 力作が続々！月別展示

### 《伊勢型紙の美の競演》

サンライフ伊勢型紙教室の有志による作品展「極限の美に魅せられて」が、四月八日から二十二日まで開催された。

鳥羽市在任の中山泰光さんが同教室に通っていることから、かどやで展示することになったもの。

講師の鮎沢行彦さんの力強い金剛力士像をはじめとして、同教室の有志二十名が計六十点を展示した。

伊勢型紙特有の様々なパターンはもとより、五重塔や平等院鳳凰堂等の歴史的建造物、自然、昔懐かしい町並み等々、多様な題材が描かれていた。作品は、それぞれが細やかで力のこもった力作揃いで、見学者を飽きさせなかった。

### 《松阪木綿のイメージ一新！

#### 斬新なデザインにため息

四月二十八日から五月二十七日は、松阪木綿（御系織）をモダンな洋服に仕立てた「岡チヨコきものふく展」が行われた。

明和町でブティックを経営する



直した作品だったが、今回は天然の藍で染め上げ、縦縞模様が特長の松阪木綿を使ったチュニックやジャケット等二十五点が展示された。

松阪木綿は主に仕事着として使われてきたが、岡さんの今回の作品は、堺市の刺繍加工専門メーカーである神田刺繍工房の協力を得てスパンコールや花柄の刺繍をあしらった斬新で粋なものばかり。松阪木綿のイメージを一新した。

今回も作品の立体感を演出するためマネキン九体を持ち込み、インナーやパンツ等もコーディネートし、アクセサリーやヘアメイクに至るまで気を配った岡チヨコ・ワールドが広がっている。見学者は「いいものを見せてもらいました」と感激され、友人を誘って二度、三度と

デザイン

の岡さんの作品展は二回目だ。前は昨年一月に和服を洋服

足を運んでくれた。

また、工房ねこのひげを主宰する中矢恵さんが松阪木綿や和布に花をあしらったタペストリーやストールを、村瀬敬子さんはサンキャッチャー（太陽光をプリズムのように屈折させるガラス等で作られたインテリア）を多数出展しており、岡さんの作品に彩りを添えた。

### 《漆器の魅力を語る》

第六十回かどや塾が三月二十五日に行われ、昨年十月に金沢市で開催された国際漆展のデザイン部門で金賞を受賞した杉谷三郎さんが「木のうつわたち」と題したギャラリートークを行った。

杉谷さんは昨年二月にかどやで同名の作品展を開き、漆器のお椀や盆、杯、大鉢、小鉢、皿等、約百点を展示した。その中に、国際漆展の受賞作「Deep Sea」も含まれていたため、受賞作の紹介も兼ねて、過去の受賞作品や新作を披露してくれた。また、漆器には欠かせない漆や素地（木地）の加工についても解説してくれた。素地づくりには、指物、挽物、曲げ物、割り物の四種

類があるが、杉谷さんは木の固まりをミノ等でえぐる割り物を作っている。割り物は縄文時代からの最も古い技法で、生産性は悪いが、他の技法では作れない形を生み出すことができるのが魅力だと話す。

杉谷さんは、漆器作りを始めた翌年からみえ県展や伊勢市展をはじめ日本クラフト展等でも多数受賞しており、それぞれの作品の創作意図や苦労した点等も話してくれた。トーク終了後には参加者が自由に作品に触れる機会も設けてくれて、ぬくもりある木の質感を確かめていた。

なお、今年のみえ県展の工芸部門でも「春のひとさら」で最優秀賞を受賞した。



**伝統音楽から洋楽まで  
様々な音楽が広がった!**

かどや扨下がリコンサートは、毎月様々なジャンルのコンサートを実施しており、今年五月には六十六回を数えた。今年前半のコンサートを紹介しよう。

**《新春は琴弾き初めから》**



今年初のコンサートは六十回目で、新春恒例の「箏弾き初め」が行われた。演奏は、伊勢正派松朋会小山中の皆さん、尺八の百瀬一山さんと西岡義伸さんだ。まりつきや荒城の月変奏曲、春の曲など、休憩をはさんで初春にふさわしい八曲を演奏した。アンコールの早春賦は「皆で歌いましょう」と会場の人たちを巻き込み、穏やかな新春気分を楽しんだ。

**《テザイナーはギターも得意》**



昨年十一月の展示は、工業デザイナーの高瀬洋さんが鉛筆で描いた犬や猫などペットの絵が人気を呼んだ。その高瀬さんはギターも玄人はだしの腕前である。中学時代から独学で始めたそう、昨年の展示会でも見学者が途切れるとギターに手を伸ばして

いた。そこで、二月十二日には「春よ来い！ギターうきうきコンサート」と題して、高瀬さんのワンマンライブを行った。ジャズやポップスのお馴染みの曲を小粋なアレンジで演奏してくれた。

**《教ネ子とオルガンで協演》**

二月二十五日には「春を待つ長尾オルガンと仲間たち」と題し、オルガン三台を使ったコンサートが行われた。かどやの蔵で見つけた明治三十年代製造の長尾オルガンと、鳥羽長尾オルガン協会に寄付された大正十年代製造の西川オルガン、明治末期製造の銀座山野オルガンを使い、かどやではお馴染みの元音楽教諭・巽耕一さんと、中学時代の教え子のキム由美子さんが、映画音楽や唱歌、クラシック等を演奏。連弾も行い、大きな拍手に包まれた。(写真はリハーサル風景)



三月は、大正琴の講師三人で結成したアンサンブルユニットのキューピットがポピュラーからクラシックまで幅広いパートリーを演奏。ワシントンDCの桜まつりやお伊勢さん菓子博にも出演した実力派が、力強いのびやかな音色を披露した。

**《パンチ溢れる大正琴ライブ》**



四月は月二回かどやで行われている小唄教室のおさらい会が開かれた。平成二十八年一月から始まった同教室には三期生まで八名が所属しており、おさらい会は今回が三回目。昨年から約半年をかけて練習してきた曲を披露した。最後の鳥羽音頭では、お客様にも踊りで参加していただいたが、その中に日舞の先生と生徒もあり、会場が一体となった。大いに盛り上がった。

**《小粋なカルテット登場》**



伊勢・松阪を中心に活動しているバンド「ジャムサンド」は、ソプラノサククス、アルトサククス、キーボード、ドラムの四人編成(カルテット)で、映画音楽を中心にJポップスやジャズ等をさわやかに演奏してくれた。管楽器中心のバンドはかどや初登場で、参加者は小粋で軽快な演奏に合

**《成長ぶりを披露》**



四月は月二回かどやで行われている小唄教室のおさらい会が開かれた。平成二十八年一月から始まった同教室には三期生まで八名が所属しており、おさらい会は今回が三回目。昨年から約半年をかけて練習してきた曲を披露した。最後の鳥羽音頭では、お客様にも踊りで参加していただいたが、その中に日舞の先生と生徒もあり、会場が一体となった。大いに盛り上がった。

**《恒例の琴コンサートにっつと》**

五月三日は、生田流宮城会ことみ会のコンサートが恒例になっている。同会は、四十年以上鳥羽で練習を重ねているグループだ。今回は、「春の七草」や「さくら三重奏」等、春にふさわしい七曲が演奏された。



最後には同会の指導者・近藤さんが長磯箏という通常の箏より長く、柔らかな音色の箏を使い、歌人であったお母様が詠まれた短歌に曲を付けた「嵯峨野」を演奏した。

**♪ゆこりんのささやき♪**

四代目事務員のゆこりんです。かどやも時代の流れを汲んで、SNSの発信を始めました。フェイスブック、インスタグラム、ツイッターイベント案内や展示の様子、かどやの風景などを投稿しています。

現時点では約四十名の方が反応してくださっており、情報の拡散につながっていくのでうれしい限りです。

それぞれのアカウントは、フェイスブック「鳥羽大庄屋かどや」、インスタグラム「no8 かどや」、ツイッター「鳥羽大庄屋かどや @kadoyatouemon」です。お友達申請、フォロー、記事のシェアなどで、応援よろしくお願いします。

## 《歌が溢れるなかまち音楽祭》



なかまちマーケットが行われた五月五日に、かどやでは「第二回なかまち音楽祭」が開催された。

昨年は「なかまちを音楽があふれる場所に」と、演奏者にはかどやと中之郷会館前(三丁目)、赤ポスト広場(四丁目)の三会場で演奏してもらった。しかし、

スケジュールがきついとこの意見もあり、会場をかどやに限定した。

今回は、かどや専属のかどやゼンザース、歌う市議会議員のラブちゃん、高校生シンガーのマナちゃん、ママさんボーカリストを含むフォーク・トリオのANOUA(あわ)、鳥羽市民コーラスはまおぎ、大正琴アンサンブル・キューピット、ギター

弾き語りの亀さん、キーボードとソフトボイスのSayuri&Mockn、四日市から参加でしパートリーの広い石崎旭ちゃん、HAMAGUCHI BANDの十組が



得意の曲を披露した。フィナーレは「この素晴らしい愛をもう一度」等、フォークファンにはおなじみの四曲を最後まで残ってくれたお客様と一緒に歌ってお開きとなった。

## 《鳥羽校生、かどやで修行中》

三重県立鳥羽高校では三年生に社会体験実習を行っており、今年は四月二十日から年間十六回、観光ビジネス系列の男子生徒二人がかどやで実習することになった。

初日にたまたま居合わせたかどや学芸員で元教諭の力ヨさんが「かどやを知るには、まず鳥羽の歴史を知ることが必要」と指南役を引き受けてくれたので、雨戸開けと掃除を済ませると、午前中は歴史の勉強に取り組んでいる。二回目の実習日は岡チヨヨさんの展示の手伝いをし、プロの仕事を垣間見た。「かどやで修行できてよかった」と言われるようスタッフも汗をかいている。

## \*開館五周年記念行事のお知らせ

平成二十五年五月一日に一般公開が始まったかどやも、皆さまのご支援により五周年を迎えました。

そこで、八代目廣野藤右衛門が明治三十年代に作った随胡帳(スクラップブック)の一部を六月二十四日(日)に公開します。当時の庶民の暮らしを垣間見ることが出来ます。午後一時半からは長尾オリガンコンサートも実施しますので、奮ってご参加を！

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

◆◆貸部屋の案内◆◆  
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。  
電話〇五九九―二五八六八六

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

## かどや保存会 平成30年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで29年度は331名の方々が会員登録され、本年度も5月20日現在で220名の方にご登録いただきました。今後も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの輪を広げたいと思います。ご登録がまだの方は是非ご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

30年度(H30/4/1~H31/3/31)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713